様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　21 年　4 月　24 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：平成 18 年度～21 年度
課題番号：18520307
研究課題名（和文）　旧ユーゴスラヴィアのメディア、言語、アイデンティティー

研究課題名（英文）　Media, Languages and Identity in Former Yugoslavia

研究代表者 三谷惠子
京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授
研究者番号：10229726

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・言語学
キーワード：バルカン、旧ユーゴスラヴィア、メディア、セルビア、クロアチア

１．研究計画の概要
本研究は、旧ユーゴスラヴィアの構成国を地域的対象とし、これらの国々のメディアに見られる言説を分析することによって、旧ユーゴ崩壊から独立を経てこんにちに至る人々の意識の変化、アイデンティティー形成のあり方を探ろうというものである。そこにおいては、具体的な事象、たとえばコソヴォをめぐるセルビアのメディア言説の分析などを行い、それを通して、これらの地域の人々の自己イメージ、他者への態度の変化を追跡する。最終的な目的は、メディアが民族アイデンティティーの形成に果たす役割、メディアと多民族・多言語共生の関係などを考察していくことである。

２．研究の進捗状況
これまでの３年間で、メディアテクストの分析を通して社会や人々の意識を探る研究を行い、その成果を論文，シンポジウム等で発表した。具体的には、新聞記事からキーワードを選び、その語彙がどのように分布しているか、その統語的役割から分析し、そこからキーワードの含意するもの、そのような語の用法を生み出す社会的背景を考察する研究を行い、その成果を発表した。またメディアが民族意識形成に果たしてきた役割を探るために、１９世紀に刊行された雑誌の調査に着手した。とくに、19 世紀中期のクロアチア民族主義高揚期に刊行された雑誌の記事に注目し、複数の雑誌を比較しながら、メディア、社会的言説、民族アイデンティティーの関係を考察しているこうした研究によって、旧ユーゴ地域の特性、民族と言語、アイデンティティーの関係などをいろいろな角度から明らかにしようとしている。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進行している。上記２で述べたように、具体的な事例に基づきメディアの言語を考察することで、メディアが民族意識や社会意識、アイデンティティー形成にどのような役割を果たしているか、そしてまた旧ユーゴ地域の特性はどこにあるのか、といったことがらを解明している。このテーマは刻々と変化する現状を対象とすることもあり、これで出来上がりという性質のものではないが、主要な目標は達成できていると言える。

４．今後の研究の推進方策
平成２１年度は、以下の研究を行う予定である。（１）総括として、旧ユーゴ諸国のメディア状況、すなわち各共和国におけるメディアの活動、活字メディアの利用状況、インターネット等の普及と活字メディアの関係、などを最新の情報を含めて整理するとともに、これまでの研究で明らかにしてきた、メディアと言語、そして民族意識の問題についての考察をまとめる。（２）メディアが歴史的に果たした役割について、19 世紀から第二次大戦後のユーゴスラヴィア時代のメディア政策まで含めて通時的に概観し、旧ユーゴ地域の民族意識形成、民族対立などにメディアがどのように関わってきたかを総括する。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計４件）

1. MITANI Keiko, "GRESTI,ITI, HODITI : tri glagola kretanja u idiomima hrvatskog jezika", *Comparative and Contrastive Studies in Slavi Languages and Literatures, 2008. Japanese Contributions to the XIVth International Congress of Slavists. Ohrid, September 10-16, 2008*. Tokyo:Hitotsubashi University, 60-88. 査読有.

2. MITANI Keiko, "From Serbia with Love: Verbal Representation of Russia in Serbian Society", Tetsuo Mochizuki Ed. *Beyond the Emrpire. Images of Russia in the Eurasian Cultural Context.* Sapporo: Slavic Research Centre, 2008, March.353-372. 査読有.

3. MITANI Keiko, "Balkan as a Sign: Usage of the Word *Balkan* in Language and Discourse of the ex-Yugoslav People", 2007. Hayashi Tadayuki & Fukuda Hiroshi (Eds.) *Regions in Central and Eastern Europe. Past and Present.* Sapporo: Slavic Research Center. pp.289-313. 査読有.

4. 三谷惠子、「旧ユーゴスラヴィア諸国におけるロシア語の地位—ロシア語教育の現状について—」ロシア語研究（木二会）、No.20. 2007, 1〜13 頁．査読有.

〔学会発表〕（計 1 件）
1. 三谷惠子「南モラヴィアのクロアチア人の言語と歴史に関する一考察」、ロシア東欧学会、2008 年 10 月 11 日、名古屋学院大学。

〔図書〕（計　1　件）
1. 三谷惠子「地域研究と言語学　Balkan の用法からバルカンを探る」スラブ研究センター監修、家田修編『講座スラブ・ユーラシア学』第 1 巻 5 章、142-168 頁、講談社、2008 年。